



月刊

AMDA

国際協力

Journal



5

MAY

2002.5.1
(VOL.25 No.5)

AMDA
プロジェクト
特集号



AMDAの医療支援活動



アンゴラ
サイール州立病院
復旧プロジェクト



カンボジア
コンボンスプー州
巡回診療プロジェクト



アフガン難民
医療支援プロジェクト
アフガン難民キャンプ
内での巡回予防接種

AMDA
国際協力
Journal

2002
5月号

CONTENTS



ネパール子ども病院（予防接種）

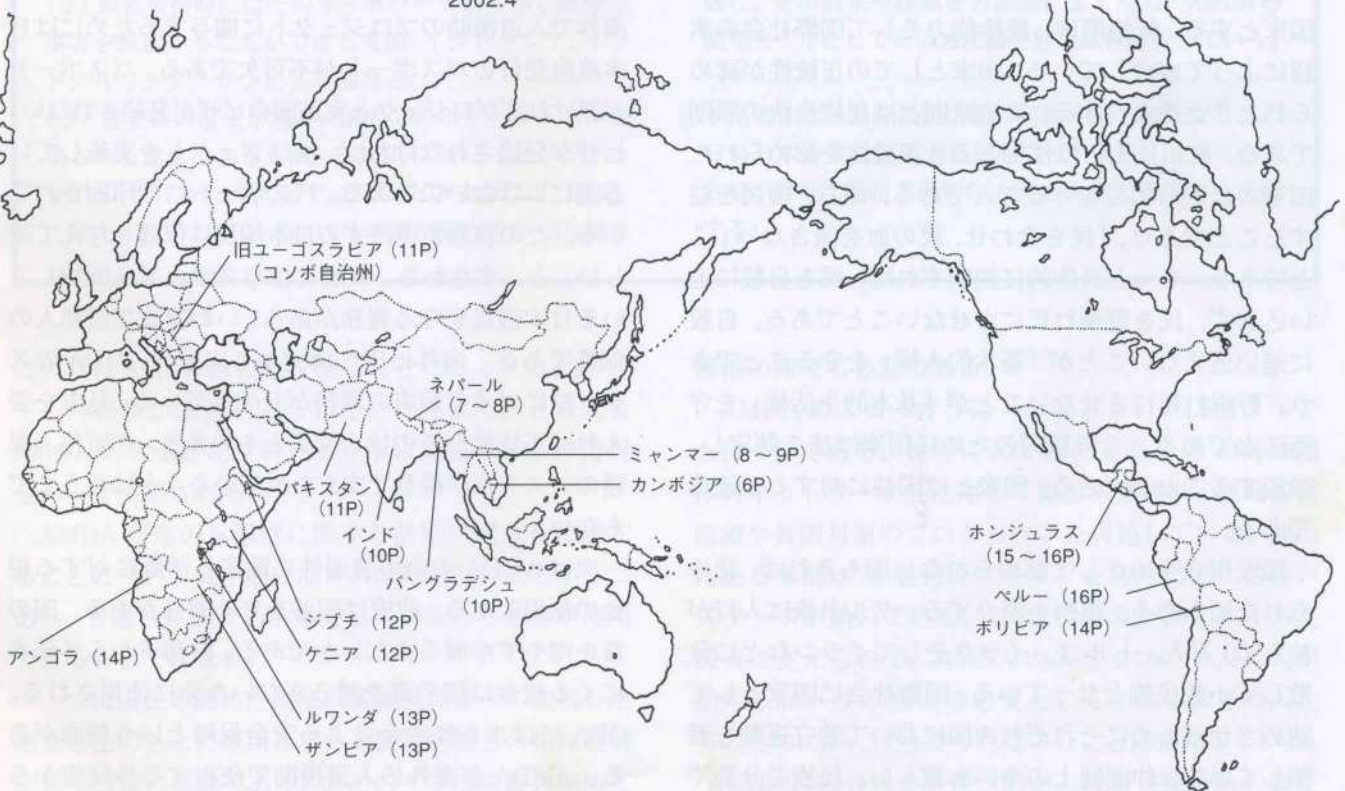
AMDA プロジェクト特集

◇メッセージ AMDA 理事長 菅波 茂	2
◇AMDA の海外事業に関して	3
AMDA 海外事業参加概要	4
AMDA 緊急救援活動年表	5
AMDA 海外プロジェクト	6
※寄付者一覧	17
◇AMDA からのお知らせ	18
◇AMDA の刊行物	20

AMDA 長期プロジェクト実施国

2002.4

今後もみなさまの変わらぬご支援を
お願いいたします。



書き損じハガキ、未使用の切手・ハガキを集めています。通信費として活用させていただいております。

政府の正統性とNGOの普遍性の連携

◇
AMDA 理事長 菅波 茂

「NGOはなぜ税金を使うのか」。アフガニスタン復興支援会議への某NGO参加拒否問題から派生した国民の正直な反応である。NGOは非政府組織なのになぜ政府から支援してもらおうのか。NGOは募金だけで清く貧しく世界の人達のために人道援助を行なっているボランティア団体ではないのか。この問いかけは重たい。なぜなら、税金を使用することは不特定多数の納税者である国民に納得のできる答えをだす必要があるからである。

AMDAの命の普遍性を大切にする活動の資金は募金が47%で税金が33%である。1,500名の会員と多くの支援者によって支えられている。この基本の上に政府と連携した活動を展開している。具体的には外務省、国際協力事業団、県や市町村などの地方自治体あるいは国連難民高等弁務官事務所などの国連機関などである。

政府とは何か。NGOとは何か。明確な定義なくして「NGOはなぜ税金を使うのか」には答えられない。その根拠について説明する。

最初に政府について定義したい。政府とは近代国民国家とする。統治原則、統治能力そして国際社会の承認によって成立している。国家としての正統性が認められたことを意味する。統治原則とは民族自決の原則である。統治能力とは法である。正統性を認められた国家の目的は国益を守ることである。即ち、国民を益することであり、「民を食わせ、民の血を流さない」ことである。もっと具体的に説明すれば、民を自殺に追い込まず、民を野垂れ死にさせないことである。自殺に追い込まないことが「基本的人権」を守ることであり、野垂れ死にさせないことが「基本的生活権」を守ることである。この目的のために国家は法を制定し、徴税することができる。国家とは国益に対する正統性である。

国家樹立をめざして認められない国もあれば、認められた国もある。事例を紹介する。クルド族は人口が約3,500万人。トルコ、イラクそしてイランなどに分散して少数民族となっている。国際社会に国家として認めさせるためにそれぞれの国において独立運動を展開している。仲間同士の争いも激しい。民族の分裂である。したがって民族の自決の原則が見られず統治能力もなしとして国際社会からは正統性を認められていない。一方、東ティモール人はインドネシアに対して

一致団結して独立運動を展開した。民族の自決の原則にもとづいて統治能力ありとして正統性のある国家樹立に成功した。

NGOについて定義する。非政府だから非正統性という位置付けは正しくない。NGOは「命の普遍性」に関する活動をする団体である。政府の正統性に対して普遍性がキーワードになる。社会から承認されることはNGOの命の普遍性に関する論理と活動に対する寄付である。社会からの寄付なきNGOは夜郎自大である。NGOが政府と対等であるという議論は成り立たない。「国益に対する正統性」と「命の普遍性」とはもともと土俵がちがうのである。土俵が異なることと対立することとは別である。「国益に対する正統性」の対象である国民とNGOの「命の普遍性」を支えてくれている支援者は同じ人たちである。

日本政府の「国益に対する正統性」とAMDAの「命の普遍性」は密接な関連軸のもとに展開されている。国家の制定した法と徴税した税金を使用している現実を認識しておくことが重要である。具体的に説明する。

最初にパスポートについて。AMDAのスタッフは海外で人道援助のプロジェクトに関与するためには日本政府発行のパスポートが不可欠である。パスポートが無ければプロジェクト実施国のビザが発給されない。ビザが発給されなければ、プロジェクトを実施している国にいけないのである。パスポートには印刷されている。「この旅券を所持する日本国民に保護を与えて欲しい」と。すなわち、政府にはパスポートを所持している日本国民を守る義務がある。いわゆる在留邦人の保護である。海外に出た瞬間から国家のAMDAのスタッフに対する政府の義務が発生している。見方を変えれば正統性からの協力関係ともいえる。在留邦人保護のシステムが税金で支えられていることは言うまでもない。

次はAMDAの命の普遍性に関する活動に対する税金の使用である。政府は国益を守る責任がある。国の富を増やすか減らさないかである。財務省から外務省にくる税金は国の富を減らさないために使用される。ODAにはまさにお金による安全保障という側面がある。AMDAが海外の人道援助で使用する外務省からの税金はODAの一環であると言えなくもない。即ち、国家の正統性を認める国民の国益を守ることとAMDAの命の普遍性に関する活動目的が一致した時、

AMDAの海外事業に関して

AMDAは「困った時はお互い様」という相互扶助の精神のもと、“A Global Network of Partnership for peace through Projects with Sogo-Fujo Spirit under Local Initiative”（支援対象の地域住民が所有する生活文化や能力を尊重し、現地事業実施団体や裨益住民と連携しながら、事業実施の過程で形成される信頼関係に基づく平和と安全の世界的なネットワーク構築）を理念とし、2002年4月現在、海外30ヶ国に支部を置き、15カ国において国際人道援助活動を行なっている。1984年の設立以来、日本（岡山県）に「本部事務所」をもつ「多国籍NGO」として、またAMDAの理念を事業の現場で具現化するため、人道支援活動を実施した国は50ヶ国を超えるが、今後も必要とされる地域へ支援を届けていきたいと考えている。

本部事務所は国際人道支援活動（災害時・紛争時の被災者・難民への短期救援を行なう緊急救援事業と、開発途上国で貧困に苦しむ人々への医療・自立・生活向上等支援を行なう地域開発事業）を海外支部（AMDAインターナショナル）や現地事業事務所と連携し、その運営体制を後方から支援している。

AMDAの30ヶ国の海外支部（AMDAインターナショナル）の体制は三つに分類される

- (1) 事業を立案、運営し、実際に活動を行ない、さらには緊急救援時や他国における開発事業へも人材を派遣することができる支部。ネパール、バングラデシュ、カンボジア、ペルー、ボリビア支部など。
 - (2) 緊急救援時にはそのネットワークを生かし医療従事者を派遣することができる支部。インドネシア、インド、ルワンダ、ザンビア支部など。
 - (3) 設立後の歴史が浅く、国内でのネットワークが構築される途上にある支部。モンゴル、ホンジュラス、コソボ、アルバニア、ガイアナ、コロンビア支部などである。
- また、支部は存在しないが、本部が国内外から人材を

派遣し現地事業事務所を設置し、開発事業を行なっている国もある。ミャンマー、ジブチ、アンゴラ、そしてケニアなどである。

本部事務所の役割

- 国際人道支援を実施するにあたり、海外に活動拠点を設立し、開発協力事業や緊急救援活動を総合的に管理運営する。また、海外事業の効果的かつ効率的な運営を支援するため、後方（本部）から適切な資源（人材、資金、物品、情報等）を派遣・投入し事業推進に協力する。
- これまでの支援活動を通じた開発事業のモデルを集大成し、その成果や経験を方法論にまで高め、AMDAの開発モデルとしてその方法論を他地域へ移転していく。
- 予期できない緊急救援活動の初動体制を確立するためER日本を含む派遣者登録制度・ネットワークを充実させ、必要な場面で適切な人材を派遣できるよう準備する。

この時にAMDAは税金を使うことになる。したがって、外務省が国益を守ることと一致しないと考えるAMDAの人道援助プロジェクトは支援者からの寄付金のみで実施される。

AMDAが命の普遍性に関する活動に税金を使用することについて気をつけなければいけないことが2つある。普遍性に関する活動をしているから税金が使用できるわけではない。

一つは国民の認めた国家の正統性によって徴税したお金を法のもとに運用している国家機関との相互理解と相互信頼の推進である。あとの一つは税金を納めている国民に対する説明責任とお金の使途に関する透明性の確保である。これらのやり方についても従来の漫然としたやり方でなく時代の流れと趨勢を見極めた新

機軸の開発も必要である。

AMDAのスローガンは「必要とされればどこへでも行く」である。世界に30ヶ国の支部と25の姉妹団体のネットワークを活用して緊急人道援助、地域保健医療や貧困対策のプロジェクトを実施している。岡山にある本部に30名強のスタッフと海外に800名近いスタッフが働いている。1500名弱の会員と多くの支援者に支えられて。AMDAのスタッフの一人一人が熟考しながらAMDAを必要としてくれる世界の人のためのがんばってくれていることに感謝している。「AMDAはなぜ税金を使うのか。税金を使う時の責任は。正統性と普遍性の連携軸とは」とを常に考えながら、政府関係者と不特定多数の納税者にも感謝したい。

海外事業への参加の概要

派遣形態	派遣形態の定義	派遣期間
1. 事業要請派遣 (中・長期)	年間事業実施計画に基づき、その運営に不可欠な知識及び技術を実践の場で活かしてもらうため、海外事業本部から正式な派遣要請を行ない、登録者の中から規程の派遣待遇に則り中長期的な派遣を行なう。	中期 3～6ヶ月 長期 6ヶ月以上
2. 事業要請派遣 (短期・緊急時)	年間事業実施計画及び事業運営の過程で派生した需要に基づき、又は突発的に発生した災害への緊急救援に対応するため、その活動に不可欠な知識及び技術を実践の場で活かしてもらうため、海外事業本部から正式な派遣要請を行ない、登録者の中から規程の派遣待遇に則り短期的・緊急派遣を行なう。	短期 0.5～3ヶ月 緊急時 0.5ヶ月以内
3. 事業協力派遣 (中・長期)	日本もしくはその他の国で専門職についた経験があり、アムダの海外事業に還元する知識や技術があるものの、事業国からの派遣ニーズが必ずしも明確に提示されていない場合、途上国における経験やこれまで開発分野に関わった経験が浅い場合、又はそのような人を派遣規程に準じて派遣するための予算が確保されていない場合、本人承諾の上、無給待遇の派遣を行なう。短期派遣は原則考慮しない。	中期 3～6ヶ月 長期 6ヶ月以上
4. 海外派遣研修 (短・中・長期)	職業経験があり、アムダの海外事業に還元する知識や技術が認められるものの、事業が要請するレベルの専門性が明白でなく、又は専門分野が現地ニーズと必ずしも一致していない場合、さらには、途上国における経験や開発分野に関わった経験の浅い人が、海外経験を求め派遣を希望した場合、本人承諾の上、研修員(インターン)として、無給待遇の短期及び中長期派遣を行なう。	短期 2～3ヶ月 中期 3～6ヶ月 長期 6ヶ月以上
5. 海外参加研修 (短期)	職業経験のない学生、もしくは新卒者が、国際協力、人道支援活動などの分野に関心を持ち、限られた期間内で海外の活動に参加したいという希望を持ち、それを主たる目的として応募した場合、事業側の受け入れ体制を最大限考慮し、体験学習(=活動参加)者として派遣する。	短期 2～3ヶ月

AMDA「ERネットワーク日本」ご登録のご案内

AMDAは設立以来、自然災害等により発生した被害に対応するため、70回以上の緊急救援活動を展開して参りました。より迅速な初動体制を確立するため、AMDA会員による登録制度「ERネットワーク日本」を整備致しました。これまでに100名近い方々の登録を頂いております。

上記、海外事業への参加の概要「2 事業要請派遣(短期・緊急時)」への参加を希望される方は、「ERネットワーク日本」にご登録下さい。

なお、ご登録者には緊急救援初動の際にお声をかけさせていただきますが、登録により参加義務が発生することはありません。また、登録者の個人情報について、濫用・流出を防ぐこととお約束致します。



緊急時の派遣に備え防災訓練

①登録ご希望の方は以下の項目についてご連絡下さい。

- 1) 氏名 2) 住所または連絡先 3) 電話/ファクス番号 4) メールアドレス
5) 参加可能分野(いずれか お選びください): 医療職 調整員 ロジスティクス 通訳 その他()
6) 「ERネットワーク日本登録希望」とご明記下さい。

②登録後、正式な登録票をお送り致しますので、登録票にご記入のうえ、現在有効なパスポートの本人写真貼付ページのコピー2部、および証明用写真5葉と共に再び下記までお送り下さい。

③登録票等の受け取りをもちまして登録完了とさせていただきます。

*お申込み・お問い合わせ先: ERネットワーク担当者

〒701-1202 岡山市楠津310-1 Tel 086-284-7730 Fax 086-284-8959

91	4	イラン国内クルド難民支援医療プロジェクト開始
92	1	フィリピン・ピナツボ火山噴火被災民救援プロジェクト開始
	3	エチオピア・チグレイ州難民医療支援プロジェクト開始
	5	バングラデシュ・ミャンマー難民支援医療プロジェクト開始
11		ネパール国内ブータン難民支援医療プロジェクト開始
12		インドネシア・フローレス島津波被災救援医療プロジェクト開始
93	1	ソマリア難民緊急救援医療プロジェクト開始
	4	バングラデシュサイクロンプロジェクト開始
	7	ネパール・バングラデシュ大洪水被災民緊急救援医療プロジェクト開始
10		インド西部大地震被災民緊急救援リハビリテーションプロジェクト開始
94	2	インドネシア・スマトラ島南部地震救援医療プロジェクト開始
		モザンビーク・ガザ州帰還難民緊急救援医療プロジェクト開始
	5	ルワンダ難民緊急救援医療プロジェクト開始
95	1	阪神大震災緊急救援プロジェクト開始
	2	ロシア・チェチェン緊急医療プロジェクト開始
	5	ロシア・サハリン大地震緊急救援プロジェクト開始
	7	アンゴラ帰還難民緊急救援プロジェクト開始
	9	朝鮮民主主義人民共和国緊急救援プロジェクト開始
	10	インドネシア・スマトラ島大震災緊急救援プロジェクト開始
		メキシコ大震災緊急救援プロジェクト開始
11		フィリピン台風被害緊急救援プロジェクト開始
96	1	インドネシア中央スラウェシ島地震救援プロジェクト開始 (AMDAインドネシアのみ)
		ボスニア機関難民救援プロジェクト開始
	2	中国・雲南省大震災緊急救援プロジェクト開始
		中国・四川省雪害緊急救援プロジェクト開始
		インドネシア・ピアク島大震災緊急救援プロジェクト開始
	3	中国新疆ウイグル自治区地震緊急救援プロジェクト開始
	4	レバノン被災民緊急救援プロジェクト開始
	5	バングラデシュ竜巻緊急救援プロジェクト開始
	7	中国貴州省大洪水緊急救援プロジェクト開始
10		メコン川流域大洪水被災者緊急救援プロジェクト (ベトナム・カンボジア・ラオス) 開始
11		ケニア赤痢緊急支援実施 (ミコノ会)
		インドサイクロン緊急救援プロジェクト開始
97	1	マレーシア国サバ州洪水緊急救援プロジェクト開始
		福井県三国町タンカー重油流出事故救援プロジェクト開始
	3	イラン震災緊急救援プロジェクト開始
	5	イラン東部地震緊急救援プロジェクト開始
		バングラデシュサイクロン緊急救援プロジェクト開始
	9	インドネシア地震緊急救援プロジェクト開始
11		ベトナム台風緊急救援プロジェクト開始
12		カンボジアプノンペン市内火災緊急救援プロジェクト開始 (AMDAカンボジア)
		ソマリア南部大洪水緊急救援プロジェクト開始
98	1	中国河北省地震緊急救援プロジェクト開始
	2	アフガニスタン震災緊急救援プロジェクト開始
	4	北朝鮮物資支援実施
	5	ボリビア震災緊急救援プロジェクト開始
	6	インドサイクロン援助物資空輸
		サハ洪水被災者救援緊急物資空輸
	7	バブアニューギニア津波災害緊急救援プロジェクト開始
	9	バングラデシュ洪水緊急救援プロジェクト開始
11		中米ハリケーン緊急救援プロジェクト開始
99	1	コロンビア震災緊急救援プロジェクト開始
	4	コソボ難民支援緊急救援プロジェクト開始
		マレーシア感染症緊急救援プロジェクト開始
	8	トルコ共和国西部大地震緊急救援プロジェクト開始
	9	東ティモール避難民緊急救援プロジェクト開始
		台湾大地震緊急救援プロジェクト開始
11		インドサイクロン緊急救援プロジェクト開始
		ベトナム大洪水緊急救援プロジェクト開始
		トルコ (ドゥズジェ) 大震災緊急救援プロジェクト開始
12		ベネズエラ大洪水緊急救援プロジェクト開始
00	3	モザンビーク大洪水緊急救援プロジェクト開始
	9	カンボジア メコン川大水害緊急救援プロジェクト開始
01	1	エルサルバドル大地震緊急救援プロジェクト開始
		インド西部大地震緊急救援プロジェクト開始
	6	ミャンマー中部メッティール洪水緊急救援プロジェクト開始
	9	米国同時多発テロ被害への緊急医療支援活動開始
10		パキスタンにおけるアフガン難民への緊急医療活動開始
11		パキスタンにおけるアフガン難民への第二次医療支援活動開始
02	2	コンゴ火山噴火避難民緊急救援活動開始
		インドネシア洪水緊急救援活動開始



1. AMDAカンボジアクリニック (ACC) プロジェクト



1997年に首都プノンペン市内で診療所を開設。医師4名で小児科、内科、産婦人科の診療を行っている。外来患者数は1日平均80名。貧困層・障害者に対しては無料で診療している。一般の外来患者にも他の私立病院に比べて診察料を低く抑えているため、低所得層の人々に多く利用されている。近年活動の評価が高まり、一般の外来患者に加え、カンボジア国内で活動している他のNGOなどから患者を紹介されるケースが増加している。

2. カンボジアコンポンスプー州巡回診療プロジェクト



活動地域は、プノンペンから西へ約80km、背後に丘陵地帯を控えているコンポンスプー州の農村地帯である。1997年頃までクメールルージュ兵の残党が残っていたとされ、まだ処理されていない地雷も多い。被害を受け障害を患う住民の数は多く、移動が困難な住民に対して1999年から巡回診療サービスを行ってきた。週2回ACCの医療スタッフが簡単な外科処理も可能な巡回車輻を用いて、無医村に赴き、障害者とその家族に対する無料診療を実施している。

3. カンボジアタケオ州アングロカ行政区保健衛生プロジェクト



アジア開発銀行が出資し、カンボジア政府保健省から委託されたパイロット的プロジェクト。AMDAが地区の行政システムの一部を担い保健衛生システムを改善・確立しようという試み。具体的には現地医療関係者のトレーニングや医療施設での技術指導を実施。プロジェクト施行期間は1999年1月から2002年12月(予定)。保健省が行った中間報告でAMDAの実績が高く評価された。

4. カンボジアデイケアセンター/チャンバック小学校支援プロジェクト



①コンポンスプー州にて国内避難民や貧困層の3~6歳の子どもたち約50人を対象に識字教育や栄養給食を実施。お菓子や果物も無料で配っている。

②AMDA高校生会と日本の建設会社(株)ウエスト等の協力によりチャンバック小学校を再建し、2001年3月カンボジア-日本フレンドシップ小学校として新校舎が完成。建設前は380名だった生徒が2002年時点では780名に増加した。

1. ネパール子ども病院プロジェクト



約1万人の毎日新聞読者とさまざまな団体からの善意の寄金をもとに、また建築家安藤忠雄氏の協力も得てネパール中西部のプトワール市に周産期医療を兼ねた小児専門病院として1998年11月開院した。

現在医師8名、看護婦20名を含む約80名のスタッフを擁し、1日平均200名を超す外来患者と1ヶ月平均300名超の入院患者に対する質の高い医療サービスを提供している。分娩件数も1ヶ月150件を超える。2001年12月に待望の篠原メモリアル小児科病棟が完成し、新生児・乳幼児に対する特別(集中)治療設備も整い、80床を超える中堅病院として地元住民の高い信頼を受けている。

2. ネパール総合保健衛生教育プロジェクト



UNDP(国連開発計画)が推進する参加型地域開発事業との連携プロジェクト。2000年9月からルパンデヒ郡の農村地域で500名の女性グループに対して女性の参加と組織化を通じて、保健衛生教育、母子保健教育、識字教育等の啓発事業を行い、彼らの潜在能力を引出すとともに生活の向上を支援している。保健衛生教育の現場では、ビデオや寸劇など視覚に訴える方法を採用し、女性たちに理解を深めてもらう努力を行なっている。またトイレなどの建設に関しても自助努力を支援している。

3. ダマック市 AMDA 病院プロジェクト



ネパール東部ジャバ郡ダマック市にて1992年、約10万人のブータン難民支援のための二次医療センターとして開設した。96年4月ネパール政府から一般総合病院の認可を受け、以後地元住民18万人への医療サービス提供も始めた。(難民の患者に対しては、UNHCRより一部支援を受けている)

現在、外来患者の70%は地元住民である。年間の外来患者は3万人、救急患者を含めると4万人を超えている。入院設備は76床。スタッフは70名。

2001年には、日本より外科専門医を派遣し、外科技術の移転の他、術後患者への看護体制を強化。超音波診断、内視鏡検査など地域住民へのサービスも拡充している。

4. ブータン難民キャンプPHCプロジェクト



ジャバ郡周辺7ヶ所の難民キャンプで、約10万人のブータン難民に対して行っているプライマリーヘルスケアプロジェクト。2001年1月英国NGOから引き継いだUNHCR(国連難民高等弁務官事務所)委託業務。ブータン難民への保健・一次医療サービスの提供、健康診断、栄養補助食品の提供を実施している。この一次医療レベルで対処できない患者については、二次医療を行なうAMDA病院へ転送されるシステムが確立している。

5. 保健人材育成センタープロジェクト



ネパール僻地の医療従事者不足に対応するため、草の根無償資金協力の支援で医療保健人材養成施設を1996年4月開校した。前出AMDA病院附属医療養成学校。①ANM：准看護・助産婦②CMA：保健婦/士補③LA：臨床検査助手の三部門で、これまでに400名近い生徒がコースを修了している。卒業後、政府主催試験の合格者は、保健省所属の医療スタッフとして無医村のヘルスポストや僻地の診療所などに派遣される。2001年度からのヒロモリ奨学金により経済的・社会的に入学が困難であった人々に対して門戸が開かれた。

6. HIV/AIDS感染症予防プロジェクト



1999年秋よりダマック市周辺3地区で、米国海外援助庁およびFamily Health Internationalとの業務提携に基づき、エイズや性的感染症に関する教育や広報活動を通じ、疾患の感染率を減少させる。性産業サービスの提供者と顧客層に的を絞り、不特定多数の人々を媒介とする感染拡大への予防教育とコンドームの使用を奨励。さらに地元の有力者、工場労働者、学生、地域団体などのグループへの働きかけを通じての啓蒙活動を継続している。2002年から活動が7地域に広がり、事業対象者の増加とともに、問題解決への効果的かつ柔軟性あるアプローチを模索している。

7. 知的障害児施設への支援プロジェクト



1997年8月、AMDA高校生会メンバー6名のネパール訪問をきっかけに障害児施設への支援活動が開始された。当初は募金活動での学校建設計画もあったが、時期尚早と判断し、ブトワール市近郊の知的障害者への社会的差別や偏見を少なくするための啓蒙活動支援を開始した。障害児を抱える家族への家庭訪問を続ける一方、理解者を増やすための小雑誌を発行したり、学校集会での子どもたちの相互交流の促進にも努めた。

アジア

ミャンマープロジェクト

1. 母と子のプライマリーヘルスケア（母子保健）プロジェクト



1995年11月からミャンマー連邦中央部乾燥地帯の無医村にて無料巡回診療を開始。これがAMDAミャンマープロジェクトの最初の活動となる。

現在は、遠隔地での基礎保健状態の改善と医療サービスの充実を目的とし、AMDA診療所での毎日の診察、無医村への巡回診療と保健教育、幼児給食と栄養指導、日本人専門家による医療技術指導、井戸建設と衛生教育、緊急時の患者輸送システム（診療費補助・交通手段の整備）等、医療を軸とした包括的地域開発プロジェクトを実施している。

2. ミャンマー子ども病院（メッティーラ総合病院小児科病棟）支援プロジェクト



第二次世界大戦中に激戦地となり非常に多くの犠牲を出したメッティーラ地域。関係者及び支援者の協力の元、極めて高い乳幼児死亡率を改善すべく1999年11月メッティーラ総合病院の敷地内に“ミャンマー子ども病院”（小児病棟）を開設。下記の活動を展開し、地域の母子保健医療活動の中核としての役割を大きく果たしている。

- ① 子ども病院の医療機器の維持、管理
- ② 医薬品の供給サポート
- ③ 日緬医療スタッフの派遣/招聘による技術研修
- ④ “栄養コーナー”（子供の患者への給食提供）

3. ACT（ミャンマー国 医療専門家育成）プロジェクト



国内医療従事者の絶対数の不足という最も深刻な問題を解決すべく、2002年2月にAMDA研修センター（ACT）を首都ヤンゴンに開校。建設地はミャンマー保健省から無料提供された。

地方にも医療サービスが行き渡るように様々な分野の医療従事者の育成、また村人の所得向上と基礎保健教育を結び付けたマイクロファイナンス（小規模融資）専門家養成セミナー等を実施する。

4. 浄水供給による健康促進プロジェクト



年間降水量が非常に少ない中部乾燥地帯では浄水の確保が困難である。安全な水の供給と村落の衛生レベル向上による疾病数の改善を目的に、メッティーラ市ではメッティーラ湖の水を利用した浄水機の設置、パコック市では農村部での井戸建設により、飲料水の確保を行う。

またミャンマー人の技術者を日本に招聘して浄水機の製作管理技術の研修を行うことで、技術を現地に移転し、その普及を促進する。

5. 防災と危機管理プロジェクト



災害による犠牲者や経済的損失の減少を目的とし、チャパタウン市に防災研修センター兼僧院学校を建設。同市農村部10村の消防団員（住民）に防災研修やケガの応急処置指導を行うと共に、同10村に消化ポンプやホース、防災用具などを設置。

消防団員は研修後、村で他の住民に対して防災トレーニングを実施すると共に、防災用具の維持管理や夜警を定期的、組織的に行うなど、村人の自主的な防災対策が継続されている。

1. インド・アーユルベータ薬草園プロジェクト



インド中部マハーラシュトラ州郊外にて現地の伝統医療（アーユルベータ）に必要な薬用植物の栽培に着手。1999年12月Manjushri Mahavihar Mansar Tah. Ramtek, Nagpur市の薬草園で開園式が開催された。このプロジェクトでは8種類の薬草が大規模に栽培され、近い将来には温室設備ができれば、中央インドに生育している全ての薬草を集めることも検討している。

1. バングラデシュヘルスポスト建設・運営プロジェクト



1996年からガザリア・ターナ地域（首都ダッカから30km）での医療サービスの提供を開始した。ボートを利用しての巡回診療や毎週金曜日にはフリーフライデークリニックと呼ばれる無料診療を実施している。2002年3月医師が常時滞在する診療所を建設し運営を開始。建物は、待合室・診察室・薬局・小手術室・入院病棟（4床）を擁する。診療はマイクロクレジットのメンバーに対しては一般の人々よりも低価格で実施。診療所が開設する半年前から現地住民を対象とした勉強会を開催するなど、現地主導に重点をおいたプロジェクトである。

2. バングラデシュ保健衛生プロジェクト



地域のヘルスワーカーが80村落の住民を対象に保健衛生教育を実施している。プライマリーヘルスケアに関する知識を浸透させ、下痢や栄養失調、母子健康保健改善のための普及活動を行っている。近年では予防可能な疾患のワクチン利用者が増え、ビタミンAの利用と野菜の消費が増加したなどの効果が表われている。また農薬の使用等により水源に砒素などが混入し汚染される問題が発生しているが、その有害性を周知するための研修を行っている。具体的には、無害な水源を利用したり、川の水を汲んだ場合には塩素を使って消毒しさらに沸騰させるなどしてから飲み水として利用するよう呼びかけている。

3. バングラデシュ AMDA トレーニングセンタープロジェクト (ACT)



生活環境改善を目的とした小規模融資（マイクロクレジット）による収入向上プログラム。メンバーの80%が女性。AMDAはグラミンバンクをモデルにしてAMDA BANK COMPLEX (ABC) プロジェクトを設け、貧困層に小規模の融資を行い、持続的な自立支援をしている。ACTではマイクロクレジットの専門家を育成するとともに保健知識の研修を行っており、これを組み合わせて受講することを義務付けることによって、基礎保健知識普及への動員力とし、生活環境の改善を目指している。

1. アフガン難民医療支援プロジェクト



2001年12月から、UNHCRとの協力によりパキスタン・バローチスタン州にある2ヶ所の難民キャンプ（ムハンマド・ケイルキャンプ、ラティファアバドキャンプ）で、キャンプ内に居住する8万人のアフガン難民への保健医療支援活動として、到着した難民の健康診断と診療所の運営を行っている。健康診断では、予防接種投与、栄養補助食品の補給、妊産婦へのケア等を行い、診療所では1日平均400名前後の外來患者を受け入れている。また24時間体制の救急車も配備し、緊急時に備えている。

2. パキスタン地域医療・保健衛生統合プロジェクト



カラチ市内でAMDAパキスタンクリニックの運営を行うと同時に、週に5回カラチ市から25km離れたグリスタン・ジョハル地域で巡回診療を実施すると同時に、栄養不良の患者に栄養補助食品を提供している。診察により病院への搬送が必要な患者については巡回車輛を利用した搬送も実施している。また巡回地域住民への保健衛生教育を実施し、意識啓蒙と知識普及に努めている。さらに医療関係者へは診療・衛生および患者搬送システムなどの研修を実施。スタッフは、医師2名、現地看護婦2名、薬剤師1名など。今後は生活全般の改善を目標に、識字教育などの実施を考えている。

1. コソボ地域医療再建プロジェクト (HoRP)



国家の解体や長く続いた紛争のため、コソボ自治州とくに村落部では、病院など医療機関の機能不全状態が続いている。また、この地域では個人の健康管理や公衆衛生に対する意識が薄く、喫煙など生活習慣に由来する病気で亡くなる割合が非常に高い。こうした状況を改善すべく、UNDP、WHOの協力のもとにより良い医療サービスの提供と住民自身の健康意識の向上をめざし、同時にプライマリーヘルスケアに重点をおく、医療従事者育成のトレーニングを開始した。現在、日本人医師が指導のため赴任している。

2. プリシュティナ大学病院 眼科支援プロジェクト



1999年空爆下のコソボで、AMDA緊急支援チームの医師が難病にかかっているひとりの少年と出会った。ネジール・シニックくん（当時3歳）は網膜芽細胞肉腫といわれる眼病にかかっており、彼に手術を受けさせるべく、他団体の協力により金沢大学に招き、また彼の主治医であるガズメント・カチャニク医師も同じく技術研修を受けられるようにしたことが始まりである。その後、多くの方々の協力を得ながら、カチャニク医師の勤めるプリシュティナ大学病院眼科病棟にレーザー治療機器を導入し、やはり眼の病気に悩む多くの人々に治療を継続している。

1. ケニアAMDAドリームプログラム



職業訓練（縫製・木工、マイクロクレジット）、保健衛生教育、AMDAクラブから構成されている総合事業である。世界屈指の規模を誇る都市貧困層居住地であるキベラスラムにおいて、貧困にあえぐ青年たちに夢と自信を与えるため、縫製や木工の職業訓練を行い、技能向上の機会を与えている。9ヶ月のコースで基礎技能をマスターするため、生徒たちは毎朝、元気に教室へ通ってくる。また、すでに開業している木工職人を対象に、マイクロクレジット（小規模融資）を実施して、収入向上を目指す。訓練生には週に1回の保健教育により、感染症などの病気予防や応急処置方法などを伝えている。さらに、子どもたちに音楽やサッカーで才能を伸ばす機会を与えている。

2. ケニア保健医療プログラム



一般診療（治療、投薬、母子保健、分娩、予防接種）と保健衛生改善（クリーンアップ、トイレ・排水溝設置）などからなる。

キベラスラム内に2001年6月より提携開業したクリニックでは、ほぼ毎日のように赤ちゃんが誕生。貧困ゆえに産まれた直後に見捨てられる子どもたちには、孤児院紹介など個別に対応している。ここでは政府からワクチン等入手し、乳幼児に対する予防接種、妊産婦検診、家族計画などにより、母子保健を充実させている。一般診療部門では、ケガや感染症をはじめとする疾病に、治療と投薬で対応している。また、保健衛生改善においては、劣悪な生活環境を改善するため、公衆トイレや排水溝を設置し、毎月、住民と共にスラム内のクリーンアップキャンペーンを行っている。

1. ソマリア・エチオピア難民支援プロジェクト



1994年、UNHCRからの委託事業として開始され、ホルホル、アリアデ、2つのキャンプに滞在する約25,000人のソマリア、エチオピア難民に対する総合的な医療・保健サービスを提供している。AMDAは医師2名を海外から派遣し、キャンプ内の診療所を基点に難民の一般患者に対する診療活動を行なう傍ら、予防接種や栄養補助食品の提供と家族計画や妊婦検診など周産期のケアを通じた母子保健をサポートしている。またこうした活動が難民を含めた現地のスタッフによって運営されるよう、保健スタッフや保健ボランティアの育成にも努力している。

2. ダル・エル・ハナン産婦人科病院支援プロジェクト



AMDAは1993年より、ジブチにおいて唯一の同産婦人科病院の復旧に携わっている。廃墟に近い状態から、草の根無償資金の支援を得、全面的な改修作業の後に修復された。2階建ての建物には、外来診察室、分娩室、手術室、40床を超える入院設備、そしてレントゲン室や検査室などがあり、一連の産婦人科診療が可能となった。AMDAはこれまで産婦人科医師を派遣、特に2000年には日本から派遣医師が9ヶ月に渡り勤務し、医療面の技術移転に貢献した。また保健省による病院改革の一環として、運営に関する自助努力が奨励され、一年半前に導入された有料診療制度による患者とのコストシェアリングも開始された。

1. ザンビアPHCプロジェクト



ザンビアの首都ルサカ市西部にあるジョージ・コンパウンド（都市型貧困層居住地域）で、国際協力事業団（JICA）と協力してコミュニティーの開発を支援してきている。ABCプロジェクトでは、保健衛生、職業訓練と識字教育を組み合わせ、受益者の能力を向上させるとともに収入増加を図っている。職業訓練では縫製を住民に教えており、2001年度は19人がアドバンスコースを終了した。識字教育は現在も進行中だが、英語、ニャンジャ語（現地語）、算数を27人の住民に教えている。2002年2月には在ザンビア日本国大使館からいただいた草の根無償資金により、コミュニティー農園内にトレーニングセンターが完成し、4月からは上記の活動が新しいセンターで行われる予定である。

2. ザンビアコミュニティ農園プロジェクト



ジョージ・コンパウンド内にある約2.8haの土地を利用して、主に大豆やメイズがボランティアの住民によって栽培されている。収穫された大豆はジョージ・コンパウンドのヘルスセンターを通じて栄養不良の子供たちに提供されたり、栄養改善のプロモーションに使用されている。安価で栄養に富んだ大豆食を普及させることにより、地域住民の健康状態を改善しようとしている。大豆食のプロモーションと同時に販売も行い、収益を上げることで農園プロジェクトが将来住民により運営されることを目指している。

3. ザンビアABCプロジェクト



ルサカ市の東南に位置するパウレニ・コンパウンドでは、1999年11月に始まったマイクロクレジットプロジェクトが2002年2月末で終了した。同地区の女性116人を対象にして小額の融資を行い、小規模ビジネスなどで収入を増加させることにより生活レベルや衛生環境の改善を図ろうとしたものである。このプロジェクトで収入が増えたため、1日3度の食事が摂れるようになった、子供が学校に通えるようになった、保健医療にお金を費やせるようになったという声が受益者から聞かれた。

1. ルワンダABCプロジェクト



首都キガリ市において大虐殺やエイズのために孤児となった若者に、自立促進支援として縫製訓練、さらにその中の優秀者にマイクロクレジット（小規模融資）を実施した。水不足が著しいビュンバ県カビラ村では、帰還民の定着支援として水タンクを設置。また医療設備が極度に乏しいウガンダ国境に近いルンゲリ県では、帰還民が安心して生活を送れるようヘルスセンターの修繕、母子病棟の改築、トイレ整備、医療機材の供給、水ポンプ設置などにより医療機能を再生している。

1. ザイル州立病院復旧プロジェクト



2000年8月よりUNHCRの委託を受け、内戦の戦禍によりほとんど機能しない状況にあった北部ザイル州の州都ムバンザ・コンゴの州立病院と地域の保健医療システムを回復させる重責を担った。事業の主眼は、医薬品や医療機材を供与することにより、国内避難民を含む5万人を超える地域住民に対する医療機会の提供を速やかに開始し継続することと、地域全般の健康維持に努めること、そして、現場で働く医療スタッフ60名に対するトレーニングによる技術移転を促すことにより医療システムの復旧を図ることである。具体的な活動内容として(1) 外来・入院患者への医療サービスの提供、(2) 医薬品及び医療器具の提供、(3) 病院スタッフに対する研修及び個別トレーニング

等の実施、(4) 発電装置及び簡易水道設備の設置、(5) 地域コミュニティーに対する保健教育機会提供などが挙げられる。AMDAが派遣した2名の医師と1名の看護師を中心に、医療サービスが日常的に提供され、外来は週末を除き毎日、一般病棟及び急患は基本的に24時間体制となった。患者数は外来・入院ともに約3~4割増え、特に小児科、産婦人科における増加が著しい。病院の医療サービスに対する信頼が回復された証と考えられる。

1. ボリビア医師研修プログラム

ATLS: Advanced Trauma Life Support Course



一般医を対象とした外傷に対する初期治療の技能向上を図る研修プログラムであるATLSコースは、動物を使った模擬手術、ダミーを使った気管内挿管など実践的な内容で、AMDAボリビアは、2000年度までにボリビア各地の医師をサンタクルス市に招聘して指導医の養成に努めてきた。2001年3月にはサンタクルス市以外では初めてとなるコチャバンバ市で研修を実施。その後、スクレ、ポトシ市でも研修を行っており、その際、これまでに養成した地元の医師が指導に加わった。

2. ボリビア救急救命関係者プログラム

PHTLS: Pre Hospital Trauma Life Support Course



2001年3月にボリビア国内で初めて実施。ATLSコースが病院内での救急救命技術の向上を目指すものであるのに対して、PHTLSコースは、救急車の同乗員などを対象とし、事故現場での外傷患者の固定・搬出方法などを学ぶこれも実践的な研修である。事故現場から病院内まで一貫して外傷患者を適切に扱い、外傷による死亡率の低下を目指すため、ATLSコースに加えPHTLSコースも同時に実施していくことが効果が高いと考える。

1. コミュニティヘルスポランティア養成プロジェクト



首都テグシガルバ市の近郊スラム地区で各管轄のヘルスセンターと協力してヘルスポランティアに対する保健衛生教育を実施。ヘルスポランティアが自分たちのコミュニティでセミナーを行なう際の支援も行なっている。養成されたヘルスポランティアの中には、さらに定められたセミナーを受け、コミュニティ薬局の運営に当たる者もいる。

2. ホンジュラスコミュニティ薬局プロジェクト



ヘルスセンターに十分な医薬品の在庫がないため、患者が一般の薬局で高い医薬品を購入せざるを得なかったり、山間地でヘルスセンターへのアクセスが悪かったりする場合、ヘルスポランティアが決められた種類の医薬品を管理し、安価で販売するコミュニティドラッグ薬局が有効となる。テグシガルバ市のラモン・アマヤ・アマドールとトロヘスで実施。AMDAは設置準備の保健省のセミナーの支援と最初の医薬品の提供、その後の定期的なコミュニティ訪問と管理の指導を行なっている。

3. ホンジュラスHIV/AIDS予防教育プロジェクト



テグシガルバ市とトロヘスでコミュニティヘルスポランティアや青少年を対象としたHIV/AIDS予防教育を実施。ヘルスポランティアが行なうワークショップを支援している。写真は小学校卒業を前にした児童にワークショップを行なうAMDAスタッフ。参加者はゲームをしたりドラマを演じたりすることでエイズについて身体を使って学び、同時に自分の意思を伝える技術などを学ぶ。

4. ホンジュラスカウンセリングルーム建設プロジェクト



テグシガルバ市カリサルヘルスセンターの敷地内にカウンセリングルームを建設。同ヘルスセンターには、従来性感染症の診療科があるものの、個別の部屋がないため患者は内科などの他の患者と混在し、受診もためらわれる状況で、十分な指導の効果を得ることは期待できなかった。別室ができたことで、HIV感染の危険性が高い性感染症の患者に対し、十分な指導を行なうことができると期待される。

5. ホンジュラス校内救急箱活用プロジェクト



学校内での死亡事故をきっかけにテグシガルバ市内の3ヘルスセンター管轄の公立学校について調査した結果、教師の知識不足と救急箱の整備状況の劣悪さが明確になった。セミナーは赤十字の協力を得て公立学校30校の教師と上級生を対象に実施。火傷、その他の外傷、骨折時の固定法、誤飲の応急処置などを指導。修了後、救急箱と医薬品の配布を行っている。



6. ホンジュラス排水溝建設プロジェクト

コミュニティでの保健衛生教育を進めるうちに、住民の間で、雨季にあふれ、乾季でもマラリアなどの原因となる汚水溜まりの解消のため、排水溝の必要性が認識され、2000年7月から住民自身が掘削を始めた。その後も住民が労働力と資材調達の一部を負担、AMDA鎌倉クラブなど日本からの寄付によるセメントの提供で工事を継続。

中南米

ペループロジェクト

1. ペルーHIV/AIDS予防教育プロジェクト



首都リマ市とその近郊の低所得者居住地域の青少年を対象にHIV/AIDS予防教育セミナーを実施。指導者となる若いファシリテーターを養成し、予備校や大学、高校などの教育機関を訪問、青少年の指導にあたる。対象者と年齢が比較的近い青年による指導は効果が高いとされ、その内容は、HIV/AIDS、STDの予防にとどまらず、自分の意思を伝達する方法、両親や所属するコミュニティの大人との関係の持ち方など、青少年の指針となるプログラムの開発を目指している。

||||| 特定非営利活動法人 **AMDA (アムダ)** |||||

□お問い合わせ先

〒701-1202 岡山県岡山市櫛津 310-1
TEL: 086-284-7730 FAX: 086-284-8959
E-mail: member@amda.or.jp
URL: http://www.amda.or.jp

□ご寄付・会費払込先

郵便振込 口座番号 01250-2-40709
口座名 AMDA
(払込内容あるいは寄付控除をご希望の場合には
払込票の連絡欄に必ずご明記下さい)

□AMDAグループ

- ・ 特定非営利活動法人 アムダ
- ・ AMDA インターナショナル
- ・ アムダ国際福祉事業団
- ・ AMDA 国内防災機構
- ・ 特定非営利活動法人 AMDA 国際医療情報センター URL http://www.osk.3web.ne.jp/~amdack

AMDAからのお知らせ

AMDAの国際人道支援活動はAMDA会員や多くの支援者の皆様に支えられています。

1984年の設立以来、アジアをはじめ世界の貧困に苦しむ人々への支援を継続できましたのも、皆様のお陰と感謝致しております。あらためて御礼申し上げます。こうした皆様のお心にお応えできまよう、AMDAでは月刊誌『AMDAジャーナル』やホームページをとおして活動報告等を行なうとともに、様々な場でアムダ国際福祉事業団と共に「国際理解教育」への協力に取り組んでおります。今後ともAMDAへのご理解、ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

■ AMDA会員の募集

会員の皆様は活動を支えてくださるAMDAのパートナーです。

AMDAからは毎月の活動報告を行ない、会員の皆様からはAMDAの活動へのご意見やアドバイスを頂き、共に活動の継続や充実をはかって頂きたいと考えています。AMDA会員としては医師会員、一般会員、学生会員、法人会員、賛助会員があり、毎月会報を送付しています。但し、賛助会員の場合には半年に1度、AMDAダイジェストを送付いたします。

AMDA会員	年会費	会報の送付
医師会員	15000円	AMDA Journal
一般会員	10000円	AMDA Journal
法人会員	30000円	AMDA Journal
学生会員	7500円	AMDA Journal
賛助会員	2000円	AMDA ダイジェスト

※入会ご希望の方は本誌綴じ込みの郵便払込取扱票をご使用になり、必要事項をご記入の上、ご入会手続きをお取り下さい。

■ AMDAプロジェクトへのご支援のお願い

AMDAはNGO団体ですから、プロジェクトの活動費用はご支援者である、個人、企業、団体からのご寄付や、政府からの助成金に依存しています。そのためAMDAジャーナルをはじめホームページ等で活動を紹介し、各プロジェクトへのご理解とご支援をお願いしております。

本誌で紹介しました、世界15ヶ国での貧困に苦しむ人々への様々な支援プロジェクトを応援して下さる際にも本誌綴じ込みの郵便払込票をご使用ください。

特定寄付をして下さる場合には、ご支援下さる

国名： 15カ国
活動種類： 地域医療・子ども病院・自立支援・生活向上支援・緊急救援

プロジェクト： 各国が実施する個別のプロジェクト名のいずれかを払込票の連絡欄にご明記下さい。

寄付控除をご希望の場合にもその手続きが必要ですので、連絡欄に「控除希望」とご明記下さい。

また、家の中に眠っている書き損じハガキ、未使用切手・ハガキをお送り下さい。AMDAでは各活動国への通信費用として使用させて頂いています。

■ 「AMDAジャーナル」の発行

AMDAではご支援者や会員の皆様への報告として月刊誌「AMDA Journal」を発行しています。事業の進捗状況や現地の人々の様子など、できるだけ新しい情報をお伝えできればと、現地と海外事業本部の担当者として連絡を取り合いながら、活動報告をまとめています。できるだけ分かりやすく、また活動の記録ともなるように、活動写真も多く掲載するようにしています。

■ AMDAホームページの掲載

AMDAの概要をはじめ活動速報（緊急救援活動等）、イベント、人材募集、各県支部・クラブ、ボランティアの皆さんの活動やAMDA Journalの内容も一部紹介しています。また、お問い合わせのページからはメールで様々なご質問や、ご意見、ご提案を頂けるようになっておりますのでどうぞご覧になって下さい。 <http://www.amda.or.jp>

■ 活動報告会

海外派遣者の帰国時には現地での活動報告会を行なっています。AMDA Journal等ではお伝えできない、派遣者の生の声をお伝えでき、参加者からも直接多くの質問を頂いています。報告会の開催につきましてはAMDAホームページ等でご案内しますので、お近くの皆様はご参加ください。



■ スタディツアーの企画・実施

現地の活動を実際に見学してみたいと思われる皆様には、春と夏にスタディツアーを企画しています。2002年の春のスタディツアーはミャンマー、ネパール、カンボジアで実施しました。2002年夏（8月～9月）のスタディツアーは、カンボジア、ミャンマー、ネパール、ザンビア、ホンジュラス、コソボを企画予定です。期間は8日間で、海外事業本部の各国担当者と現



地のスタッフがプロジェクト現場をご案内します。プロジェクト視察が主体ですが、各国の名所観光の時間もあります。ご興味のある方は AMDA のスタディツアーに参加なさってみてください。

■「国際理解」教育への協力

●講演会

国際協力への関心が高まる中、学校教育や生涯教育などのさまざまなカリキュラムに国際協力が取り入れられ、教科書や資料集にも AMDA が紹介されることが多くなりました。それに伴い、学校や地域、企業からの講演会のご依頼を頂き、AMDA の活動をビデオや写真を交えながら紹介させて頂いています。

国際理解教育に協力させていただくにあたり、AMDA としまして多くの皆様に活動内容等を分かり易くお伝えできるようその方法を模索しています。



鈴木

菅波

●イベント参加（活動パネル展示）

様々な国際協力のイベントの参加呼び掛けにも AMDA は活動パネル展示のかたちで参加しています。パネルのみの貸し出しも行なっていますので、どうぞご利用ください。



■ AMDA 県支部

AMDA 内の協力団体として県支部やクラブがあります。支部やクラブでは AMDA のプロジェクトを個別に支援したり、独自の活動を実施しています。各支部、クラブの主な AMDA プロジェクト支援活動を紹介します。

●AMDА 神奈川支部：AMDA のネパールダマック病院プロジェクトを支援。AMDA 病院附属医療養成学校に入学する子女への奨学金制度を設立、現在ではヒロモリ奨学金として、医療従事者を目指す貧しい学生を支援しています。また、同学校の図書館（神奈川ライブラリー）へも書籍を寄付しています。

連絡先：小林国際クリニック内

TEL046-263-1380 FAX 046-263-0919

●AMDА 兵庫支部：AMDA ネパール子ども病院を支援。スタッフの医療レベル向上と維持を目的とし、指導医をネパール子ども病院へ派遣して医療技術を指導しています。ま

た新しい指導方法として遠隔医療（インマルサット衛星電話を介してのレントゲンフィルムやライブ手術の画像伝送）の試みを行なっています。

連絡先：山田小児科内 TEL/FAX 0798-71-9821

URL <http://www.amda-hyogo.gr.jp/>

●AMDА 沖縄支部：突然に発生する自然災害や、紛争による難民への緊急救援活動開始の際に、医師の派遣協力を行なっています。

連絡先：沖縄セントラル病院内

TEL098-854-5511 FAX 098-854-5519

●AMDА 鎌倉クラブ：ホンジュラスのプロジェクト支援や緊急救援活動を支援するために、チャリティーコンサートやバザーを開催、さらには地域へ AMDA の活動を紹介しています。

連絡先：古山盛二事務局長方

TEL 0467-24-1677

■ AMDA 高校生会

（岡山県在住の高校生を中心に構成）



AMDA のプロジェクトを支援。AMDA 本部での勉強会やイベント参加による支援プロジェクトの紹介、募金活動を行なっています。今年度はミャンマー子ども病院内の栄養給食プロジェクトを支援します。毎週火・金曜日の放課後集会和月1度の土曜集会有ります。

連絡先：TEL 086-284-7730

URL <http://www.amda.or.jp/highschool/>

■ AMDA ボランティアの登録

AMDA 本部事務所での事務やイベント補助は多くのボランティアの方々にご協力を得ております。ボランティア活動の内容は様々ですが、あらかじめボランティア登録をしていただき、希望ボランティア活動内容により、その都度お願いの連絡をさせていただきます。

ボランティア登録は担当までご連絡下さい。

TEL 086-284-7730 FAX 086-284-8959

海外派遣・参加に関するボランティアは、ホームページに人材募集として掲載しておりますのでご覧ください。

AMDA 関係 刊行物のご案内

- ・お問い合わせは、AMDA 本部事務局まで。
TEL 086-284-7730 FAX 086-284-8959
- ・お申し込みは、郵送が FAX でお願いします。
- ・お支払いは、郵便振替でお願いします。送料別。
口座 AMDA 出版 口座番号 01220-6-12076

AMDA Journal

— 国際協力 —

アジア・アフリカ・南米での AMDA の医療救援活動のレポートを中心にした月 1 回発行の情報誌。会員には会報として自動的に送られている。

初刊 1992 年 12 月より現在に至る。バックナンバーは一部を除いて揃っています。希望の方は、AMDA 事務局まで。



定価 600 円

毎月 1 回発行

AMDA の提言

— 人道援助の世界都市 —

岡山から世界に飛び出し、国際的な医療 NGO として知られる AMDA。その代表の著者が問いかけ、提案する。「日本は経済大国から、人道援助大国をめざせ。岡山に世界へ向けての人道援助ネットワークの拠点を築こう」と。

256 頁
ISBN4-88197-607-9 C0036 P1600E

- ・菅波 茂 著
- ・出版元 山陽新聞社
- ・1996 年 11 月 25 日発行



定価 1,680 円

ルワンダからの証言

— 難民救援医療活動レポート —

援助大国とはいえ、国際的な NGO に比べると組織は小さく財政的にも弱い日本の NGO が、劣悪な環境の中でルワンダ難民のために活動した記録。

200 頁

ISBN 4-521-00541 C0030 P2000E

- ・AMDA 著
- ・出版元 山中書店
- ・1995 年 4 月 3 日発行



定価 2,100 円

遥なる夢

— 国際医療貢献と
地域おこし —

AMDA 設立までの経過と活動記録。AMDA に関わった人々について紹介すると共に AMDA の展望と日本の NGO 活動への提言。

316 頁

- ・菅波 茂 著
- ・出版元 AMDA
- ・1993 年 9 月 20 日発行



定価 2,500 円

とびだせ！AMDA

— AMDA ・アジア医師
連絡協議会の活動 —

第 1 部 阪神大震災における AMDA 医療ボランティアの動き。緊急救援活動における後方支援体制。防災への提言。

第 2 部 国際緊急救援での活動記録。バングラデシュ、ネパール、カンボジアやルワンダ、ソマリアなどの紛争地区での難民救援活動の記録。270 頁

ISBN 4-905690 21-8 P1800E

- ・菅波 茂 著
- ・出版元 厚生科学研究所
- ・1995 年 7 月 15 日発行



定価 1,890 円

はばだけ！ NGO・NPO

— 世界の笑顔にあいたくて —

自然災害・難民救済・環境破壊・高齢者福祉など様々なボランティア活動は国内だけでなく国際的な広がりが求められています。広島県と共同開催の第一回 NGO カレッジの講義録で、国際ボランティアを志す人に必携の書。328 頁

ISBN4-88517-263-2 C1030 P1800E

- ・ひろしま国際センター編
- ・出版元 中国新聞社
- ・1998 年 3 月 25 日発行



定価 1,890 円

医療和平

— 多国籍医師団アムダの人道支援 —

21 世紀を生きる子ども達の命を救いたい！AMDA は北部同盟とタリバンの保健担当者を岡山に招聘。AMDA のアフガニスタン国内医療和平構想に両者は快諾し協力を約束してくれたが…救える命があればどこへでも行く AMDA の緊急救援活動と危機管理。225 頁

ISBN4-08-78 1262-6 P1500E

- ・菅波 茂 著
- ・出版元 集英社
- ・2002 年 5 月 2 日発行



定価 1,575 円

AMDAの保健教育・生活向上支援



ミャンマー 巡回診療前に衛生教育を実施



ミャンマー 浄水供給プロジェクト



ホンジュラス AMDAが養成したコミュニティのヘルスボランティアによるエイズ教育



ザンビア コミュニティ農園プロジェクト



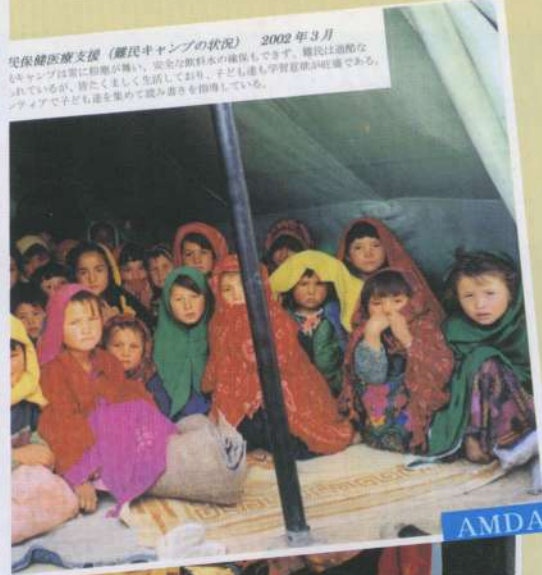
ケニアドリームプログラム 木工と裁縫の職業訓練





アフガン難民保健支援 2002年2月

AMDAは保健支援をする2ヶ所のアフガン難民キャンプの乳幼児を対象にポリオワクチン投与キャンペーンを実施。キャンプ内のテントを巡回して子ども達にポリオ経口ワクチンを投与した。



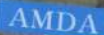
保健医療支援 (難民キャンプの状況) 2002年3月
 保健医療支援 (難民キャンプの状況) 2002年3月
 難民キャンプは常に避難が繰り返され、安全な飲料水の確保もできません。難民は油断なく生活しているが、病気をこらえて生活しており、子ども達も学習意欲が旺盛である。アマダで子ども達を集めて読み書きを指導している。



援 2002年2月
 内で母親と子どもに重点をおいた保健支援活動を行なっている。また、さらには予防接種の投与を行なっている。



医療支援 2002年3月
 アムダ事務所からの依頼を受けてアフガン・パキスタン難民キャンプとキャンプによって、医療活動や難民の健康管理カードを作成している。



アフガン難民保健医療支援 2002年3月
 AMDAは難民キャンプ内に3つの保健医療センターを設置し、患者診療部門と母子保健部門に分けて診療や保健活動を行なっている。

賛助寄付のお願い

AMDAの活動写真パネルに企業・団体名を掲載させていただきます。
 1口 10万円 (パネル10枚セット) -
 AMDAのロゴの部分に企業団体名が入ります。

みなさんのちからを
 必要とされる人たちがいます



AMDA募金箱を置いていただける方はご連絡下さい (TEL 086-284-7730)